

田原総一郎さんと佐世保の未来を考えた新春討論

報道討論テレビ番組で親しまれているジャーナリストの田原総一郎さんが司会を務めるシンポジウムが今週9日(月)にアルカスSASEBOで開かれました。

これは早稲田大学の講座受講生でつくる一般社団法人「ストーンスーヴ」の主催で開かれたシンポジウム。『ふるさと共創シンポジウム』と題して、4人のパネリストが登場。田

原さんの司会進行で、魅力のある地方をどうやってつくっていくかを、様々な視点で考えました。

「なぜ所得が低いのか」「進学、就職は県外という流れは止められないのか」「佐世保と福岡はどこが違うのか」「本当に都会が進んでいるのか」「米軍基地と自衛隊に頼り過ぎてきたのではないか」など、素朴な疑問を提示しながら、佐世保の「いける点」「いけない点」を考察。最後は長年の課題となっている石木ダム問題についても意見交換を行うなど、市民にとってはとても興味深い内容となった新春討論会。分かりやすい議題を官民一緒にオープンに意見

を交換できるスタイルがとても新鮮なシンポジウムでした。

2017.1.13 ライフさせぼ

交換できるスタイルが



パネラーは左より辻井隆行さん(パタゴニア日本支社社長)、櫻澤香さん(銀座「蜂の家」経営者)、葉谷浩介さん(エコノミスト)、橋之口裕太さん(佐世保市議会議員)。

